

古銭

二の丸御殿跡からは 200 枚を超える古銭が出土した。その中には中国貨幣が 17 種（中国貨幣 33 枚）、朝鮮半島の貨幣が 1 種含まれていた。

考古学者たちは、松本で鑄造された銭貨の発見を期待していた。1636 年、幕府は「寛永」という新しい銅銭を導入し、これが徳川時代（1603-1867）の標準通貨となった。この銅銭は、松本を含む全国十数ヵ所で鑄造され、1637 年には松本城で一回の鑄造が行われた。

残念ながら、二の丸御殿からは松本製の銅銭は出土していない。出土した和銭のほとんどは、1668 年以降に流通した新寛永と呼ばれる寛永の改鑄銭である。

また、タバコの煙管の金属部分や、鑄造の際に出る枝状の金属部分を利用した偽硬貨も発見された。